

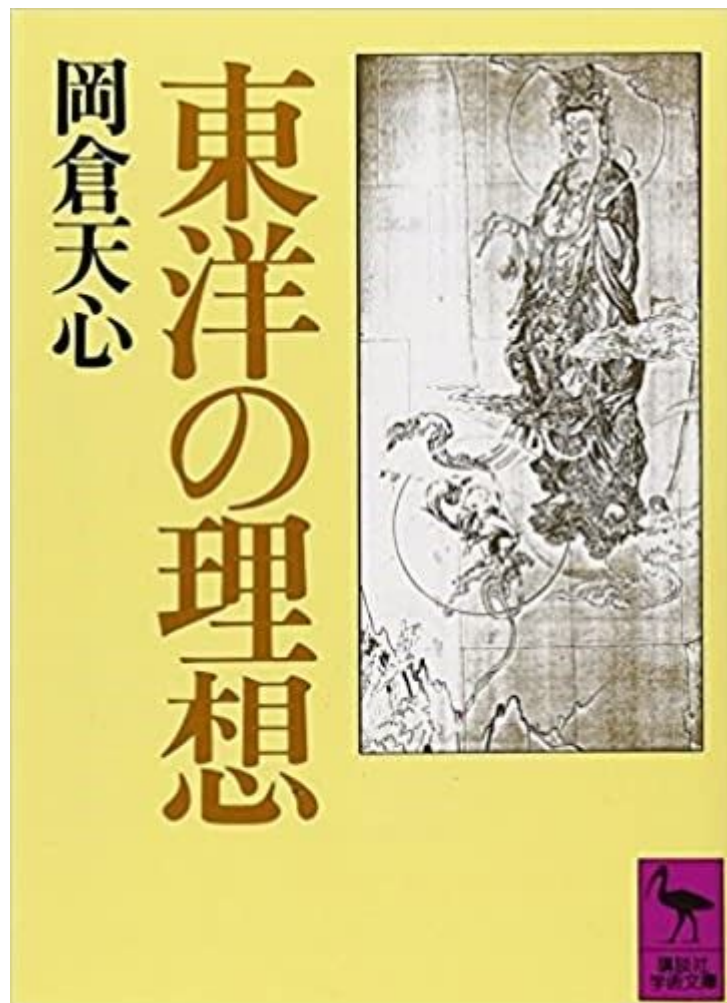
## 岡倉天心（岡倉覚三）

### 中村史子

「お雇い外国人」のアーネスト・フェノロサは1878年来日し、西洋近代化の荒波に押し流されつつあった日本古来の美術の魅力を「発見」し、その復興に尽力した。そのフェノロサの右腕となったのが若き岡倉天心であり、文化財の保護に努めた他、東京美術学校、そして日本美術院を創立し、革新的な日本画家を育てる。さらに米国に渡り、ボストン美術館の中国日本美術部部長に就任。彼が米国で発表した*The Book of Tea*（『茶の本』）は、茶の湯を通して日本文化を紹介する書籍として、今なお世界中で読まれている。

このように、天心は日本文化の振興に寄与した教育者、思想家であるが、フェノロサとの出会いを始め常に複数の国々、異なる文化との関係の中で、日本文化を捉えていた。旧イギリス領のインドを訪れ詩聖タゴールとも密に交流しており、古今東西の文化に通じたまさにコスモポリタンと言えよう。

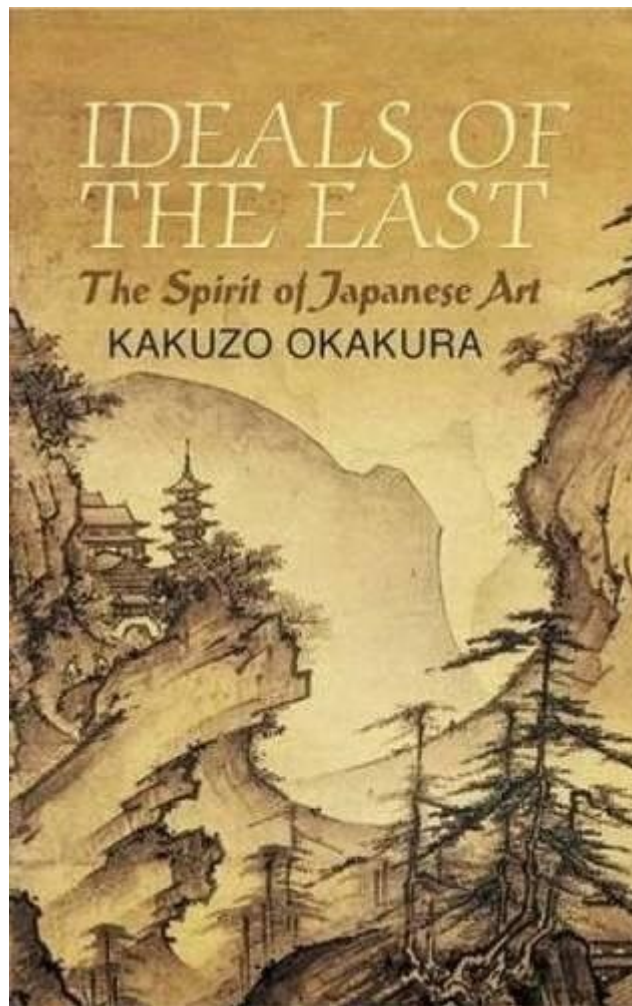
しかしながら、彼の“Asia is One”（*The Ideals of the East* 『東洋の理想』より）というフレーズは、後にナショナリズムの称揚ひいては侵略主義のスローガンとしても用いられる。“One”が含む両義性については、今こそ複数の視座からの検討が必要だろう。



日本語版

岡倉天心『東洋の理想』（講談社〈講談社学術文庫〉、1986年）

\*原著は1903年にジョン・マレー書店（ロンドン）より出版された。



英語版

Okakura Kakuzo, *Ideals of the East: The Spirit of Japanese Art*, 2005

Dover Publications, New York

\*The original version was published by John Murray, London, in 1903.

## 関連ワード

東京美術学校